

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	72人	算数	72人	理科	72人
第5学年	国語	63人	算数	63人	理科	63人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

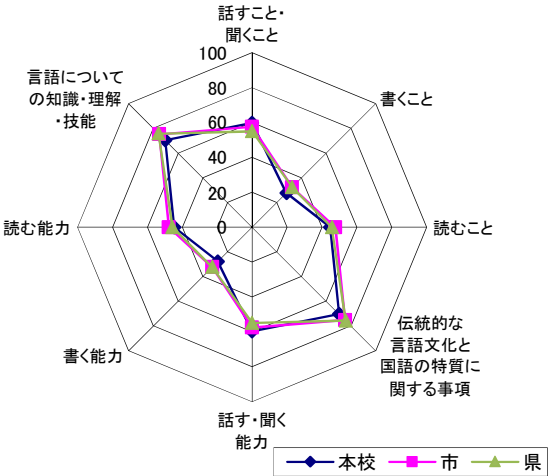
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.7	57.5	54.9
	書くこと	27.8	32.3	32.3
	読むこと	44.7	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.4	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	59.7	57.5	54.9
	書く能力	27.8	32.3	32.3
	読む能力	44.7	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	70.4	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

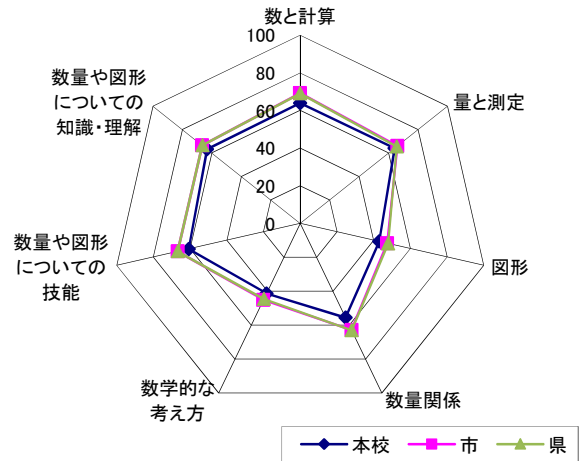
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の正答率を上回っており、他の領域と比べても高い。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解して進行したり、理由を挙げながら筋道を立てて話すことがよくできている。授業の中で小集団による話し合い活動を行ったり、日頃から理由を挙げながら話したりする言語活動を行っている成果であると考えられる。 ●話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べることは県の平均正答率を大きく上回っているものの、正答率は31.9%と低く、話を聞いて自分の考えを述べることに課題が見られる。	・今後も授業の中で小集団による話し合い活動を取り入れ、だれもが司会者の役割を担ったり、理由を挙げながら自分の考えを述べたりできるように指導する。 ・「聞く」ことを大切に指導を充実させる。授業や朝の会での「スピーチ」などで、話の中心に気を付けて最後まで聞くことができるようにする。 ・児童の多様な考えを引き出せるように、話し合いのねらいを明確に示したり、発問を工夫したりする。
書くこと	平均正答率は、県の正答率を下回っており、他の領域と比べても低い。 ●文章構成を意識しながら内容を工夫したり、メモをもとにして記述内容を考えたりして、報告レポートを書くことについて課題が見られる。	・授業の終末の学習のまとめと振り返りを大切に、それらを自分の言葉で書く習慣を身に付けさせるようにする。 ・短作文や日記指導等を通して、自分の考えを書く機会を増やす。指導の際には、文例や文章構成についての例を示すなどして、児童の書くことへの抵抗感を少なくするように努める。
読むこと	平均正答率は、県の正答率とほぼ同じである。 ○説明文について、目的に応じて文章を要約することがよくできている。 ●物語文について、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読むことに課題が見られる。	・朝の読書、家庭での読書や音読を推進し、文章に親しむようにさせる。音読カードを活用し、音読の習慣化を図る。 ・物語文において、登場人物の気持ちを想像しながら読んだり、物語を読んで感じたことを発表し合ったりして、読むことの楽しさを味わわせるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、他の領域と比べると高いが、県の正答率と比べると低い。 ○会話文における「」の使い方をよく理解している。日記指導で会話文を入れるように指導してきた成果であると考えられる。 ●漢字を書くことが県の平均正答率を大きく下回っている。 ●簡単な単語をローマ字で書くことについて、県の平均正答率を大きく下回っている。	・漢字を練習する際に、声に出して繰り返し読んだり、振り仮名を振らせたりすることを徹底して指導する。漢字の習得については、朝の学習の時間を充実させるとともに、家庭学習により定着させていく。 ・文章を書く際には、習った漢字を使うように徹底して指導する。 ・定期的にローマ字の練習プリントを行い、継続して定着を図る。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.0	69.2	69.1
	量と測定	64.2	66.1	65.6
	図形	43.1	47.4	48.0
	数量関係	55.6	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	41.3	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	60.8	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	63.4	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

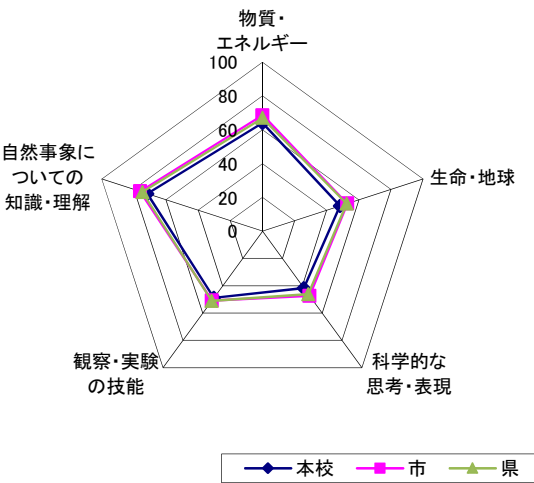
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均正答率と比べて低い。 ○整数－小数＝小数(1/10の位までの小数)は県の平均正答率を上回り、よく理解できている。 ●3位数×2位数＝5位数の計算に課題が見られ、かけ算のひっ算についての理解が不十分である。 ●余りのある除法の計算の答えを確かめることについて課題が見られる。	・計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。 ・乗法や除法のひっ算の仕方を指導する際に、途中の計算過程や位取りについて理解が図れるよう丁寧に指導する。 ・除法の答えを求めた後、計算の答えを確かめることを習慣化させる。
量と測定	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○分と秒の単位で表された時間を秒の単位に変換することは、よく理解できている。 ○はかりに示された重さを読み取ることがよくできた。 ●重さの単位を考えながら、物の重さを選ぶことに課題が見られる。	・実際にはかりなどの道具を使って測定するなどの体験的・操作的な活動を充実させ、実感を伴った理解ができるようにする。 ・日常生活の中で、長さや時間、重さなどを意識させ、単位に関する感覚を磨くようにする。
図形	平均正答率は、他領域と比べて低い。 ●円の直径を定規を使って作図したり、箱に入った同じ大きさのボールから半径を求めたりすることは、県の正答率をやや上回っているが、6割程度の正答率であり理解が十分でない。 ●コンパスを使って正三角形を作図することに課題が見られる。	・習熟度別学習を取り入れ、三角形や円の作図指導を丁寧に行ったり、朝の学習や家庭学習で繰り返し問題に取り組ませたりする。 ・体験的、操作的活動を通して図形の定義や性質を考え、自分の言葉で説明し合うなどの言語活動を取り入れて、図形についての知識を定着させる。
数量関係	平均正答率は、県の平均正答率と比べて低い。 ○未知の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶことがよくできた。 ●棒グラフの目盛りの大きさを読み取ったり、表や棒グラフからわかる正しい内容を選んだりすることに課題が見られる。	・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線等にして説明し合う活動を多く取り入れる。 ・自分で問題文を考え、解き合う活動を取り入れる。 ・棒グラフや折れ線グラフの特徴や目盛りの読み方等を丁寧に指導する。また、他教科と関連付け、グラフを読み取ったり作成したりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.0	68.6	66.9
	生命・地球	48.3	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	41.7	47.4	46.2
	観察・実験の技能	48.9	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	71.7	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県の正答率に比べて低い。 ○おもちゃ作りの時間を十分に確保したこともあり、同極が退け合い、異極が引き付け合うという磁石の性質が経験を通して理解できている。 ●4年生では各設問の問題文が長く、文章の意味を的確にとらえて答えを導くことが必要となるが、題意を読み取れていない児童が多い。	・理科で使う言語は特殊なものもあるので、科学的な言語については説明を加えながら段階的に授業に取り入れていく。 ・簡潔で論理的に説明する能力を身に付けさせるために、説明のパターンを示しながら、繰り返し指導していく。
生命・地球	平均正答率は、県の正答率に比べて低い。 ○虫メガネや方位磁針などの実験器具の使い方は、観察や実験で一人一人が体験しているためか、よく身に付いている。 ●選択式に比べ、短答式、記述式の問題で県や市の平均との差が大きくなっており、言葉で説明し表現する能力に課題が見られる。	・児童は、興味・関心が高まったとき多くのことを学び自分の知識の中に取り入れることができるので、興味・関心を高められる学習の設定をする。 ・理由を説明するといった問題で誤答が多いことから、得た知識を適用する際、明確な根拠を言葉で説明できないことが考えられる。自分の考えをまとめ、書かせる機会を増やしていく。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は9割を超えていて、県の平均を大きく上回っている。キャリア教育に力を入れてきた成果であると思われる。

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」や「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活のために役に立つと思う」と回答した児童の割合は、市の平均を上回っている。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は市の平均を上回っている。今後も授業で、グループでの話し合い活動や発表の活動を多く取り入れ、児童間の活発な意見交換ができるように指導を続けていく。

●家で学校の授業の復習をしていると回答している児童は4割程度にとどまり、また、平日の家庭学習の時間について「全くしていない」と「30分以内」の児童を合わせると2割程度おり、県の平均を大きく下回っている。家庭学習において、予習や復習、テストの間違い直しや自主学習などで課題が見られる。今後も個別指導をしながら、家での学習スタイルを指導していきたい。

●「授業の最後に振り返りを行っている」と回答した児童は6割程度にとどまり、振り返りが十分にできているとは言えない。

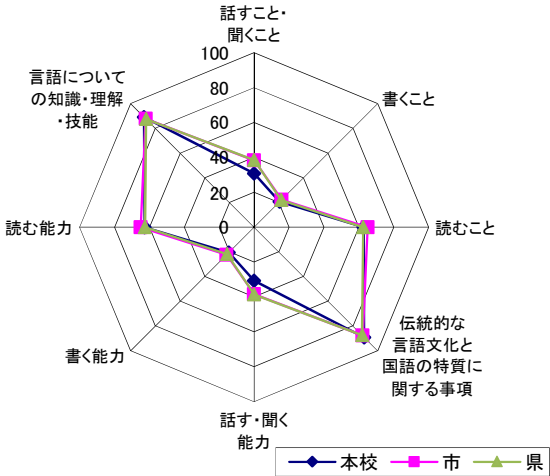
●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」や「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合を見ると、どちらも肯定的に回答している児童の割合は5割程度で、市の平均を下回っている。学校の授業で課題に取り組ませる際に、時間や順序を指定することで、計画性をもった学習が行えるよう指導をしていったり、授業の調べ学習などで様々な調べ方を教えたり、自主学習を通して疑問に思ったことを積極的に調べる活動を取り入れたりしていく。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」や「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」と回答した児童の割合は、市の平均を下回っている。体験活動や具体物の操作などを授業の導入時に取り入れることで、児童が興味をもって学習に取り組む態度を育てる。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	30.7	38.3	38.5
	書くこと	20.6	22.3	21.9
	読むこと	62.7	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	89.2	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	30.7	38.3	38.5
	書く能力	20.6	22.3	21.9
	読む能力	62.7	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	89.2	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

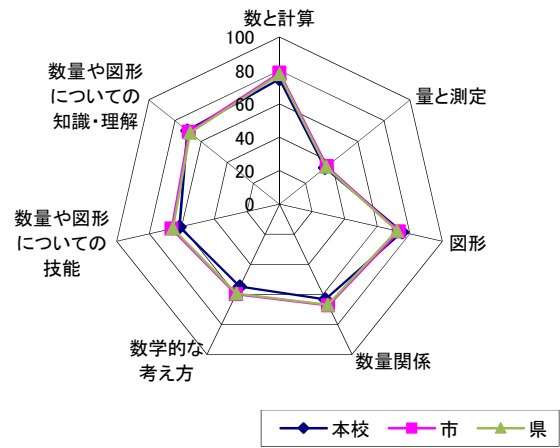
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の正答率と比べて低い。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行することは、正答率が30.2%と低く、県の平均正答率より10%以上も下回っている。 ●考えの共通点や相違点を整理しながら聞くことについて課題が見られる。	・話し合いの仕方について形式化したものを掲示して、いつでも確認することができるようにしたり、授業の中で小集団による話し合いをする機会を意識的に取り入れたりして、司会者の役割についての理解を深め、だれもが司会者の役割を担うことができるように指導する。 ・「聞く」ことの指導を充実させる。国語の学習だけに限らず、朝や帰りの会でのスピーチや連絡、学活や会話科等での話し合いや活動等において、話し手と自分の意見の「共通点と相違点」を意識しながら聞くことを身に付けさせる。
書くこと	平均正答率は、他の領域と比べて低い。 ●文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作ったり、メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れたりすることに課題がある。 ●書くこととすることの中心を明確にして書くことに課題が見られる。	・新聞を活用して、記事に合った見出しを考えさせたり、写真や資料から読み取れることなどを、自分の言葉でまとめさせたりする学習を意図的に設けていき、書くこととすることの中心を明確にして書くことができるようにしていく。 ・テーマを設けて文章を書かせるなど、作文や日記指導の工夫をして、書くことへの抵抗を減らしていく。
読むこと	平均正答率は、県の正答率とほぼ同じである。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことはよくできている。授業の中で登場人物の気持ちを考える機会を多く取り入れたり、児童が自主的に読書に親しんだりしている成果であると考えられる。 ○中心となる語や文に注目して小見出しを付けることはよくできている。 ●文章を読んで考え、まとめたことを発表し合うことは、県の平均正答率ほぼ同じであるが、正答率は31.7%と低く、内容の読み取りに課題が見られる。	・短い文章の要旨をまとめたり、細かい部分を表現したりする活動や引用文を用いた短作文を書く機会を意図的に設け、児童の文章への抵抗感を減らしていく。 ・文学作品の読み聞かせをしたり児童に音読をさせたりして、文学作品に触れる機会を多くする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県の正答率と比べて高く、他の領域と比べても高い。 ○漢字は、読み・書き共によくできおり、県の平均正答率よりも高い。普段から、漢字の書き取りを繰り返し行ったり、児童が自主的に漢字の学習に取り組んだりしている成果であると考えられる。 ●漢字辞典の使い方について課題が見られる。	・漢字辞典をお道具箱の中や机の脇の物かけに下げさせるなど、身近な場所に置いてすぐに手に取れるようにする。 ・授業の中で漢字辞典を引く機会を意図的に設けたり、家庭学習として語句の意味を調べさせたりなどをして、辞典を引くことへの抵抗感を減らしていく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.9	78.6	77.7
	量と測定	34.9	36.3	35.7
	図形	75.4	73.3	72.1
	数量関係	63.3	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	54.8	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	61.4	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	70.6	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

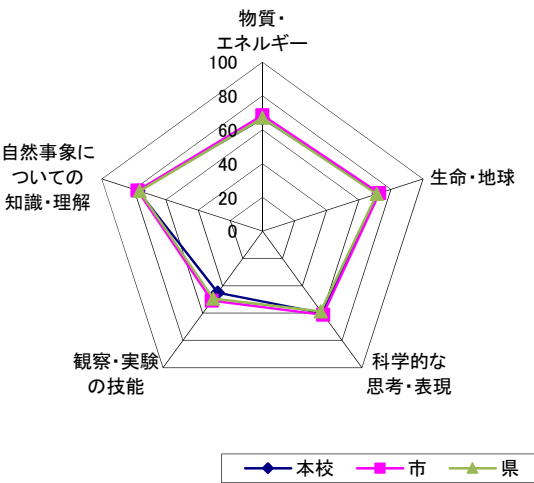
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均の正答率は、県の平均正答率と比べてやや低い。 ○帯分数を数直線に表す問題は県、市の正答率を上回り、よく理解できている。 ●3位数×2位数＝5位数の計算に課題が見られる。かけ算のひっ算について理解が不十分である。 ●帯分数－真分数の計算(同分母分数・繰り下がり)に課題が見られる。	・ドリルやプリントで計算練習を繰り返し行い、かけ算のひっ算の習熟を図る。 ・ひっ算の仕方を指導する際には、位取りや繰り上がりの間違いが少なくなるように計算の順序を丁寧に指導する。 ・帯分数を仮分数に直し方や同分母分数の計算のやり方を復習したり、いろいろな数を分数に直したりすることで数量感覚を養う。
量と測定	平均の正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●およその面積を推測し、答えを選ぶ問題は県の正答率を上回ったが、正答率は5割に届かず理解が不十分である。 ●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題は正答率が3割に届かず、課題が見られる。 ●式に合った複合図形の面積を求めることに課題が見られる。	・日常生活の中で概数を使ったおよその数を求める場面を設定したり、概数を使って物事を判断する問題を取り入れたりすることで、概数で表すことの良さや目的を理解できるようにする。 ・図や式をもとに、自分の考えを話したり説明したりする言語活動を取り入れ思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。 ・図や表を式に表す活動を繰り返し行うことで自分の考えを表現できるようにする。
図形	平均正答率は、県の平均正答率と比べてやや高い。 ○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶことがよくできた。正答率も県、市を上回り9割を超えた。 ●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形完成させることに課題が見られる。正答率は県とほぼ同じだが、正答率は6割に届かず理解が不十分である。	・体験的、操作的な活動を取り入れたり、習熟度別の学習を利用して少人数での作図指導を丁寧に行ったりすることで理解の定着を図る。 ・作図の学習では図形のかき方だけでなく、図形の特徴を考えたり、図形を比較し同じところや違うところを考えたりすることで、図形の性質をしっかりと理解できるようにする。
数量関係	平均正答率は、県の平均正答率と比べてやや低い。 ○図や表から変わり方を考え、表にあてはめる数を求めることはよくできた。 ●折れ線グラフから下がり方の一番大きい部分を答えることに課題があり、県の正答率と比べても19%の差がある。	・グラフの読み方について宿題や朝の学習で繰り返し指導することで定着を図る。また、社会や理科などの他教科との関連を図りグラフを読み取ったり書いたりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.8	68.6	67.0
	生命・地球	72.3	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	60.1	61.2	58.8
	観察・実験の技能	45.0	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	77.3	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○金属の温まり方について予想をもとに結果を見通す問題はよくできていた。 ○熱せられた空気の動き方についてはよく理解できている。 ●光電地の働きと強さの関係から結果を推測すること、金属の棒の温まり方について説明する問題は県の正答率と差があり課題が見られる。	・自分の考えを説明する力が十分に身につけていないので、予想、実験、考察のなかで自分の考えを明らかにし、説明をする場面を多く設定する。 ・学習内容と日常生活を結びつけ理科の学習を身近に感じられるような工夫をすることで、児童の関心を高め理科の知識の習得を図る。
生命・地球	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○冷やしたコップの周りについた水てきの正体や冬のサクラのようすについてはよく理解できている。 ○うでのつくりや関節のはたらきについてはよく理解できている。 ○金属の温まり方について予想をもとに結果を見通す問題はよくできていた。 ●方位磁針の名称についてはよく理解できているが、使い方については課題が見られる。 ●星座の動きを捉えるための適切な記録方法に課題が見られる。 ●水の状態変化については理解が不十分である。	・様々な器具の名称だけでなく、正しい使い方を実験を通して一人一人が体験的学習を通して身に付けられるようにする。 ・水の状態変化については児童の日常生活と関わりが深いので、児童の経験を学習に生かせるような手立てを考える。 ・観察対象の記録については対象となるものによって記録方法が変わってくるが、正しい観察の仕方をまずはしっかりと身に付けさせる必要がある。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は9割を超えていて、県や市の平均を上回っている。キャリア教育に力を入れてきた成果であると思われる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した児童が6割弱おり、県の平均を大きく上回っている。家庭での情報機器の普及や利用率が高く、学習に関する関心が高いことが分かる。

○「国語の問題を解く時間は十分であった」と回答した児童が8割以上おり、県や市の平均を大きく上回っている。

○「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのはすきだ」と回答している児童が7割以上おり、県の平均を大きく上回っている。

○「算数の授業の内容はよくわかる」と回答している児童が9割超おり、県の平均を上回っている。単元ごとに習熟度別にクラス替えを行い、個に応じた指導を行ってきた成果であると思われる。

●「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と回答した児童が6割弱いるが、県や市の平均からは大きく下回っている。「課題を期間内に済ませる」とか「お楽しみ会等の企画・計画したことを最後まで運営させる」などの達成可能な内容から成功体験を多く積み、最初から諦めたり、失敗することへの不安感を減らしたりすることができるようにしていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童は4割程度にとどまり、県や市の平均から大きく下回っている。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した児童は6割弱にとどまっており、こちらも県や市の平均から大きく下回っている。普段の生活から見て、宿題はきちんとやることができるが、それ以外の学習をしようという意識も意欲も低いので、家庭学習の仕方を紙面で提示し、家庭学習の仕方を身に付けさせていく。また、自主学习ノートを活用して、その日の授業のノートをもう一度まとめなおしたりテストの間違えた問題のやり直をさせたりして、学習の復習をする習慣を身に付けさせていく。

●「授業の最後に振り返りを行っている」と回答した児童は6割程度にとどまり、県や市の平均から下回っている。授業内での振り返りの時間が十分に確保できないことが多いので、授業の展開や振り返りの仕方の工夫をするともに、各自で振り返りをする習慣化を図っていく。

宇都宮市立清原東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の終末に、本時の課題に対するまとめを板書して確認し、一人一人が分かったことなどを振り返りノートに書く時間を確保している。	児童質問紙の「振り返る活動」に関する質問項目について、「はい」と回答している割合は、4年生で64%、5年生で65%であり、県平均よりもそれぞれ5ポイント以上下回っている。
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開（効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等） ・朝の学習の充実	・教科に関する調査結果において、算数の数と計算に関する問題で、正答率が県の平均よりも4・5年生ともに9ポイント以上下回るものがあった。 ・国語では、5年生の「文章の読み取り」や「漢字を書くこと」で県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
児童質問紙の家庭学習に関する項目の中で、「家で自分で計画を立てて勉強している」は4年生で県平均を20ポイント以上下回り、「家で学校の授業の復習をしている」は、4・5年生ともに20ポイント下回っている。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・10月と1月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを記入してもらったりして提出するよう指導する。 ・学年に応じて自主学习に取り組み、手本となるノートを紹介する。